

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 鳥海)

事業所番号	0690700281		
法人名	医療生活協同組合やまがた		
事業所名	グループホーム和楽居		
所在地	鶴岡市日枝字海老島63番5		
自己評価作成日	平成 30年 3月 5日	開設年月日	平成 29年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の想いを否定せずに受け入れるように努めている。例えば、外出欲求がある入居者がいた場合、職員同士が声をかけあって、できる限りではあるが、外出の付き添いを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 3月 19日	評価結果決定日	平成 30年 3月 29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成29年4月に医療生活協同組合やまがたを母体として和楽居は開設し、「利用者様の尊厳と人権を守り、繋がりが大切にするケアを実践します。」「利用者様の自分らしさと生き方を尊重しこころ通うケアを実践します。」の他3項目の理念を掲げています。利用者の出来る事はしてもらい、家庭的な生活を維持しながら穏やかな暮らしが出来るように努めています。職員は目標を持って小さい事から始め、コミュニケーションを取りながら統一したケアで、居心地良く過ごしてもらいたいと環境整備を図り、職員自身が老いた時に入居したいと思う事業所を目指して利用者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に理念を作成した。開設前の研修で、職員全員と理念の共有を行った。	理念は開設前プロジェクト会議で決めて、職員とは読み合わせをしている。利用者に対して否定的な言葉を使うことなく、様子や状況によって個別ケアを行い自分らしく生活できるよう心の通う介護を実践している。	委員会を立ち上げ、理念に関して徹底出来るようにする予定をしているが、利用者・職員共に道標になる事から、早急に取り組むことが望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員を町内会長にお願いし、運営推進会議に参加してもらっている。また、2017年は町内会の夏祭りに参加をした。公園の掃除など町内会の行事がある時には声をかけてもらいたいとお願いしているが、参加実績はない。	町内会主催の夏祭りに全員が参加し楽しいひと時を過ごしている。地域ボランティアの演歌を楽しむ会の方や保育園児の来訪があり、歌とお遊戯の披露で楽しみながら交流を図っている。日常散歩の中で地域の方々と気軽に挨拶を交わし、馴染みの関係が築けるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設前の説明会や、運営推進会議で認知症ではないかと疑われる方が徘徊しているのを見つけた時には、和楽居に連絡をしてくれれば、和楽居入居者ではなくとも対応すると話をした。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、活動状況を報告している。	運営推進会議には、町内会長・行政・利用者・家族等が参加し開催している。事業所状況や報告事項の他、その時々テーマを出して意見をもらっている。意見から外出レクリエーションの時、家族等にも参加を呼び掛けるなどしてサービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鶴岡市介護相談員派遣事業の介護相談員訪問の訪問相談活動を受け入れている。また、運営推進会議にも参加してもらっている。運営推進会議には鶴岡市長寿介護課の職員からも委員として参加してもらっている。	市担当者からは運営推進会議に出席してもらい、事業所の取組みには理解を得ている。市主催のグループホーム部会にも参加しており、常に担当者で連絡を取り不明な点など教えてもらい良好な関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関への施錠は夜間のみとしている。また、その他の身体拘束も行っていない。	身体拘束については、年間研修計画に基づいて学習会で学んでおり、日常生活の中にもリスクがあることを家族等に説明し理解を得ている。ヒヤリハットや事故報告から事例の検討を行い、安全に暮らせるように気配りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	山形県主催の高齢者虐待防止研修会に参加し、資料を回覧した。また、いつでも見ることができる状態にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作れていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間を取って丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者代表、入居者家族代表にも参加してもらい、意見をもらっている。また、投書箱を設置している。	居室担当者は家族等が面会に来た時や受診付き添いの時に話を聞き、管理者に内容を伝えている。毎月の請求時に近況報告を添え、その都度連絡を密にして家族等と信頼関係を築けるようにしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、部門会議を開催し、職員の意見交換の場も兼ねている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員面談を実施し、職員の意見を個々に聞いている。併せて介護ラダーを行っている。また、部門会議でも意見の集約に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、案内が届くため、希望があれば参加を奨励している。業務に必要なものに関しては、業務保証して参加をしてもらっている。また、毎年法人研修を行っており、基本的には全員が参加できるようにしている。		外部研修の案内を職員に開示して選んで受講してもらっている。事業所内部で毎月学習会を開き、認知症に関する項目や感染症対策・食中毒に関する事に特に力を入れている。個人目標を1年間取り組み、レベル判定を行い管理者と面接し、話を聞く介護ラダーを取り入れ力量アップを図っている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	鶴岡市のグループホーム部会に参加し、学習会にも参加した。また、山形虹の会には開設前に研修をさせてもらい、不明点などあればその都度連絡を取っている。		市主催のグループホーム部会に管理者が参加し、学習会には職員も出席し学びを深めている。法人内の交換実習を行って職員の気付きなどを介護の反映に繋げている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査時に、本人の意向を聞いている。		/	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に重要事項の説明や契約を行っているが、その時に確認を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、課題の分析に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	周囲とのコミュニケーションを大切にし、家事を一緒に行うなど、共同で生活していただく意識を持つようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入ってしまうと、関りが減ってしまう家族も多いため、基本的に受診は家族対応とし、関わりを持つ機会を作っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、友人が面会に来てくれている方もいる。入居前に家族には面会者はいくら来てもらっても構わないと話している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入りながら、入居者同士のコミュニケーションを支援するように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し、一旦契約終了となることが多いが、退院が決まった際には法人内外の施設との調整も含めて相談に乗ると話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を決めて、本人の意向を確認するようにしている。	日常生活の中で利用者の思いや望みを聞き取り、また家族等と話し合いでの気づきなども介護記録に残して、部門会議の中で職員の共有を図っている。物事を否定しないで「楽しい、ここに来て良かった」と感じてもらえるよう寄り添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に在宅のケアマネより情報提供を貰っている。また、本人や家族から生活歴の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームとして作成しているが、内容的にもう少し充実させたいと思っている。	モニタリングを行い家族等の意見や担当者の気づきなどを入れて、何が必要かなどをカンファレンス会議で検討し、利用者が無理なく実現出来るようプラン作成に心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は毎日行っている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はあまりできていない。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の付き添いは家族対応としているが、受診時の状況報告書を作成し、持って行ってもらっている。また、日常的なやりとりは施設で行い、状態に応じて受診を早めてもらうなどの対応を行っている。	本人や家族の希望を大切にして、家族等の同行でかかりつけ医への受診をしている。医師への情報として、利用者の体調変化があった場合などの様子や残薬数などを状況報告書で行っている。受診結果は家族等から口頭や電話で聞き記録して共有を図っている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションきずなど契約し、日常的に気になる点をやり取りしている。また、緊急ではない場合の事は、連絡ノートでやり取りをしている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、入院した病院の相談室や病棟看護師と情報交換をしている。また、協力医療機関は同一法人であるため、普段から連携を取りやすい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、歩行ができなくなった場合や共同生活を行うことができなくなった場合は、別の施設へ移ってもらう必要がある事を説明している。しかし、その部分について医療関係者と連携はできていない。	入居時に医療が必要な場合には、他施設への移行等を本人や家族等へ説明し同意を得るようにしている。重度化対応・終末期ケア(看取り介護)対応指針を作成しており、利用者の状態変化に応じて都度本人や家族等との話し合いと合意を得られるようにしている。	終末期の医療連携について、利用者の状態変化に合わせて本人・家族等に医師からの説明と同意が得られるように、同法人の医療機関との連携体制の構築を期待したい。
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設前に研修を行った。今年度は行うことができなかったが、来年度に一次救命などの学習会を予定している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。災害マニュアルも作成。地域との協力体制は築けていない。	防災訓練は消防署の指導を受けながら実施して、訓練後の講評を今後の災害時の対応や改善に取り組んでいる。職員の招集や安否確認を法人の一斉メール送信装置で利用できる連携体制を構築している。	災害時において利用者が避難する際に、近隣住民からの見守りや協力が必要と思われる。地域住民も訓練に参加できるような方法と協力体制の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	している。鶴岡市の介護相談員訪問時も、良い対応ができていると言われている。	利用者の人格や尊厳を守るための言葉かけや対応については、その都度職員同士で指導や注意をしている。利用者それぞれの考え方や行動を否定せず聞くなどして、間を持たせ落ち着いてもらえるように対応している。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保をするため、接遇研修や守秘義務等が重要と思われるので、内部研修に組み入れることを期待したい。
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な声かけをする場合、どうしたいのかなど希望を聞き出すようにしている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務が優先になることがないようにこころがけている。入浴など、希望があれば夜間に行うなどしたかったが、体制上の問題で行えていない。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装について支援が必要な方には職員が支援を行っている。また、移動美容室や床屋さんにもきてもらい、散髪や白髪染め、パーマなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や皿洗いなど、できる方にはしてもらっている。	職員の持ち回り制の献立係りが利用者の食べたい物などを聞き、献立に反映し食材を業者に発注している。利用者は、調理や盛り付け・配膳・あと片付けなどの役割を分担している。食事前に口腔体操を実施しておいしいと言葉に出しながら楽しい食事をしている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医よりトロミ使用の指示がある方や、減塩の指示がある方は対応している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行いながら実施している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導、リハパン確認など、その人に合った支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンのチェックを分析中であり、現在は利用者の尊厳を傷つけないように定時のトイレ誘導を行っている。失敗の多い方にはリハビリパンツをはいてもらい、気持ちよさを保つためにも様子等から察知して交換をしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行っている。また、食事にヨーグルトやヤクルトを取り入れている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日、入浴時間は決めているが、外出や拒否があった場合には日にちや時間の変更を行っている。	入浴は午後に行い週2回を目標にしているが、利用者の希望に合わせて午前や夜間にも柔軟に対応している。季節のゆず湯や色・香りの入浴剤を使用して喜ばれ、職員と利用者が1対1の入浴をすることで普段話せないことも会話に繋がっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安感が強い方への声かけなど行い、安心して眠っていただけるように心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助を行っている。また、内服薬が変更になった場合などは特に状態の観察をしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や調理、掃除など、その方が得意なことをしていただいている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪がない時期には希望があった時に散歩を行っている。また、地域の夏祭りへの参加や外出レクを行っている。必要に応じて家族へ協力のお願ひもしている。	日常の散歩や職員と共に買い物をしたりして楽しんでいる。季節ごとに町内の夏祭りや藤の花見・水族館・紅葉狩り・ぶどう狩り等にも出かけ、外食を兼ねた外出支援をしている。家族等と利用者が一緒に外出や外泊ができ絆が深まるよう支援している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所の金庫で管理し、必要時に使用している。どうしても自分で持ちたい方は、施設では責任を持ってないことを話をした上でではあるが、所持している方もいる。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には電話の使用や手紙の投函を行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に飾り付けを作る、お雛様やクリスマスツリーを飾るなどを行っている。	ホールにはおひな様を飾り利用者を和ませ、外出レクリエーション時の写真や利用者が作った貼り絵・塗り絵・折り紙等を季節ごとに飾り、雰囲気を感じながら楽しんでいる。利用者に合わせたテーブルの配置替えや席交換をして居心地よく過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに和室を作り、テレビやソファなどを置いている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうように話している。また、冷蔵庫、こたつ、テレビなど電化製品を持ち込んでいる方もいる。	自宅での使い慣れた馴染みの物や冷蔵庫・こたつ・テレビなども持ち込み、利用者の思いや個性を出し生活をしている。歩行に不安がある利用者には、移動の際の転倒防止を図るためにセンサーマットの利用で職員が駆けつけ、安心して暮らせるように配慮している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差なし。また、廊下には極力物を置かないようにして、歩行の妨げにならないようにしている。			